県テコンドーの発祥地「阿蘇道場・再始動」!
6月3日　阿蘇中学武道場

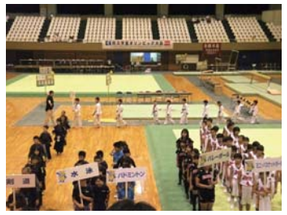
再始動した阿蘇道場

昭和60年4月に当時の全国組織・日本テコンドー協会の県協会として、旧阿蘇町武道場で県内テコンドーの普及活動を開始後、早28年が過ぎ、シドニー五輪出場の樋口清輝選手や津田ひかる選手を輩出した名門阿蘇道場だが、今回、残念ながら西村紀幸前支部長が退会したため、急遽、樋口悦夫国際師範が13年ぶりに阿蘇道場を指導することとなった。

会場は、昨年に開校した内牧の阿蘇中学武道場（剣道場）で6月3日、午後7時から武道館支部から樋口清輝支部長や、佐藤由衣OG等も駆けつけ約2時間に亘り初稽古が行われた。阿蘇道場では、歴史ある道場であり、武道教育として今後も普及活動に全力を挙げたいと樋口師範は語った。

熊日学童オリンピック総合開会式に合志、託麻支部が参加!
7月7日　熊本県立総合体育館

第39回熊日学童五輪開会式は、県立総合体育館に18競技から確約団体の代表約200名が参加して総合開会式が行われた。
テコンドー競技は昨年からの参加で、開会式には、合志支部、託麻支部から10名が参加した。



全日本ジュニア直前、強化練習!
7月21日　熊本学園大テコンドー道場

出場問題に揺れた全日本ジュニア選手権大会、選手強化委員会が出場予定のジュニア選手を対象とした強化練習会を行った。

午前、午後の2回にわたって行われ、ジュニア選手達は、室温が35度を超える中、熱心に取り組んでいた。また、出場への経緯説明が選手の保護者等へ樋口会長から詳しく話された。

強化練習の様子

昇級審査に95名が受験!
8月4日　県民運動公園体育館

夏季昇級審査会は県内の道場、大学等から95名が受験した。猛暑の中、昇級めざし真剣に取り組んでいた。

津田ひかる選手、県民体育祭で表彰される!
9月14日　天草市本渡運動公園陸上競技場

第68回県民体育祭は14日、天草市本渡運動公園陸上競技場で約2000人が参加して盛大に開会式が行われた。

県下、20の郡市などから約12000人が参加して行われる県民体育祭だが、今年の優秀選手には、阿蘇郡市体育協会から推薦された津田ひかる選手が、今年の全日本優勝など、これまでの実績により唯一表彰を受ける事となった。

昨年は、阪上弘一選手が受賞していて、テコンドー競技がここ2年連続で表彰される快挙となった。県協会も各地域での体育協会への加盟を積極的に行っており、現在5支部が加盟していて地域に根ざしたテコンドーの普及に力を注いでいる。県民体育祭への公開競技参加も夢ではないかもしれない。

テコンドーくまもと Vol.41
TAEKWONDO KUMAMOTO
2013.5▶2013.9

熊日学童オリンピック 選手宣誓

阪上選手2連覇! 本田選手2度目の優勝!
全日本学生選手権大会
9月8日 愛知県豊田市

今年の全日本学生選手権大会は、愛知県豊田市で開催され、県勢は、男子74kg級で阪上弘一選手（学園大）が、−74kg級で2連覇を果たした他、本田千尋選手も（学園大）−57kg級で2年ぶり2回目の優勝を飾った。−46kg級出場の津田ひかる選手（学園大）は、決勝で敗れ惜しくも準優勝となる。

また、崇城大の片山絵里佳選手も−57kg級で3位となり、県勢は4個のメダルを獲得した。個人戦総合順位では、学園大が昨年に続き3位をキープ。また、熊本大も神垣選手、甲斐選手、前田選手が準々決勝に進んだが、惜しくも敗退した。昨年以上の県勢の活躍に拍手を贈りたい。

熊本県選手団

9階級で優勝! 26個のメダルを獲得!
全九州選手権大会　8月25日 長崎県立総合体育館

第24回全九州選手権大会は、九州各県から選抜された選手が集い38階級に260が参加して開催された。県協会は、28階級に41名が出場し、優勝9名、準優勝8名、3位9名の計26個のメダルを獲得する好成績を収めた。

また、ジュニアの MVP には武道館支部の廣田龍信選手が選ばれた。

熊本県選手団 入場行進

KTA
KUMAMOTO TAEKWONDO ASSOCIATION

発行 熊本県テコンドー協会 / 熊本市南坪井町 4-23 MT ビル 1F　TEL&FAX 096-206-1772
ホームページ ▶ http://www.kumamoto-taekwondo.jp
Eメール ▶ info@kumamoto-taekwondo.jp

※大会結果の詳細はホームページに掲載

MVPに宮本絵美里選手（学園大）第19回県学生選手権!

4月28日　崇城大学体育館

第19回県学生選手権大会並びに第45回熊本地区大学総合体育大会テコンドー競技は、崇城大学体育館に崇城大、熊本大、熊本学園大の各テコンドー部から選手が参加してプンセ、キョルギ（個人・団体）が行われた。

福永哲法、崇城大テコンドー部監督の開会宣言の後、崇城大テコンドー部、新顧問に就任された東康二教授により来賓あいさつが、その後、試合が行われた。

今回からプンセ競技も行われ、上級の部では、学園大が上位入賞を独占した。また、キョルギでは、白熱した試合も多く、熊本大が男子軽量級、重量級を1位から3位まで独占入賞を果たし、女子合同級では、学園大の宮本絵美里選手と熊大の川上あすみ選手との決勝戦となり宮本選手が接戦の上、優勝を飾った。

県選手権大会・最優秀選手は津田輝史朗選手（熊本総合医療リハビリ学院）

6月9日 熊本県民運動公園体育館

第19回県選手権大会は9日、県民運動公園で県内各支部、大学等から96名が出場して開催された。開会式では、園田幸二副会長が選手に激励のあいさつ、競技はプンセ、キョルギの2競技が実施された。

河野朋浩竜田支部長は、今夏をもって熊本を離れ、サンフランシスコへ移住することとなり、最後に今大会へ出場、−68kg 級で見事、2位入賞を果たした。

閉会式では、十数年に亘る県協会での功労に対して感謝状が贈られた。

河野支部長のお礼の挨拶

熊本市杯テコンドー大会に80名が熱戦!

7月7日　熊本県民運動公園体育館

第5回熊本市テコンドー選手権大会兼第4回熊本市杯スポーツ大会テコンドー競技は、7日、県民運動公園体育館に、熊本市協会に加盟する7道場、3大学から80名が出場し、プンセ、キョルギに熱戦が繰り広げられた。

開会式では、戸山流居合道師範の高橋和成先生から、武道としての心得等の挨拶のあと、武道館支部の森永修斗選手の選手宣誓の後、競技が行われた。今回からジュニア、一般の部では、新人戦が新たに設けられ白熱した試合も多く大会を盛り上げた。

全日本ジュニア 野田里香子選手 準優勝、3位に廣田龍信・山崎爽選手!

7月28日 長野県立総合体育館

全日本協会が、出場停止処分を下した県協会の選手だったが、スポーツ仲裁の裁定、JOCの指導等により、全日本ジュニア選手権への出場が可能となり、県選手も晴れて、17名の選手が出場を果たした。厳しいトーナメントではあったが、小学5年生女子の部で野田里香子選手（川尻）が、準優勝を果たし、また、中学生男子重量級の部では、廣田龍信選手（武道館）初出場となった山崎爽選手（武道館）が3位に入賞する成績となった。

今回も小学生の体重が細分化されていない学年もあり、また、審判の服装、ジャッジの不適切な人員配置等、課題は未だ改善されていない現状は残念でならない。しかしながら、県協会の選手は入賞を逃がした選手も内容は、入賞にあたいする選手も多く選手達の頑張りにエールを贈りたい。

※大会結果の詳細はホームページに掲載

不知火道場・団体戦を制す!熊日学童五輪テコンドー!

9月1日　熊本市雁回館体育館

昨年からテコンドー競技が加わった熊日学童五輪、今年は、第2回熊本県小学生大会としても開催、64名の選手が参加、プンセ、キョルギの個人、団体戦が行われた。

開会式では、池下敬一郎熊日事業部次長、筑紫汎三大会相談役があいさつ、野田里香子、山崎蓮斗両選手による選手宣誓が行われた。その後プンセ競技から試合が行われた。

昼食後に行われた、幼児のワンマッチ試合、大学生による板割りの演武は、大会を大いに盛り上げた。

個人キョルギは、レベルの高い試合が多く、小学5･6年軽量級では、永目純也選手（不知火）と2大会連続優勝を狙う富田大翔選手（阿蘇）の決勝となり接戦の末、富田選手が優勝、同重量級では、山崎蓮斗選手が優勝、5･6年女子では、野田里香子選手（川尻）と吉田陽菜選手（宇土）の決勝となり、野田選手が接戦を制し昨年に続く2大会連続の優勝を決めた。

注目の団体戦は、7チームがエントリー、3人制による団体戦で行われ、決勝は、武道館道場と不知火道場の戦いとなり1対1で迎えた大将戦、不知火道場の永目選手が試合を決めて、嬉しい団体優勝を飾った。

翌日の熊日新聞スポーツ紙面に大きく掲載された。

キョルギ個人戦

デモンストレーション

個人プンセ

キョルギ個人戦

不知火道場 団体戦優勝

東アジアテコンドー連盟歓迎レセプション

5月17日　アークホテル熊本

1998年から交流を行っているオ・ノキュン前忠清大学教授が、昨年、NGO団体、東アジアテコンドー連盟を発足、目的は、競技団体組織ではなく、ホームステイ、キャンプ、テコンドー交流会、テコンドー用品等を無料で寄付するなどの事業を主に行うボランテイア活動団体として立ち上げ、十数年の交流を行っている熊本県テコンドー協会もその趣旨に賛同し、熊本国際協会の加盟団体でもある県テコンドー協会の事業の一環として今回、役員歓迎会を行った。

東アジア連盟からは、7名の役員が来熊、17日、約50名が出席しての歓迎レセプションが行われた。

オ・ノキュン氏は、政治的に現在東アジアは、緊張状態が続いているが、テコンドーを通じての親善交流を深める事により、民間外交で、東アジア各国の、友好関係が良好に保てるならば、発足した意味は大きいと挨拶、県国際協会顧問であり、県テコンドー協会相談役の筑紫汎三先生からは、十数年前のJR大久保駅でホームから落ちた日本人を助けようと犠牲になった韓国留学生のイ・スヒョンさんの話をされ、「日韓の絆は、こういったところから生まれます。これからも文化やスポーツでお互いの国がさらに近くなる事を願います」とあいさつ、その後、記念品が贈られ、和やかな歓迎会となった。

オ・ノキュン理事長